

地域音楽コーディネーター養成講座【11月】
「音楽企画書の書き方」
音楽企画書をつくる — その役割と活用

2024.11.23.Sat

生田 創（長久手市文化の家）

Niterra日本特殊陶業市民会館
公益財団法人音楽文化創造

芸術とは何か？

なぜ、必要なのか？

1. はじめに

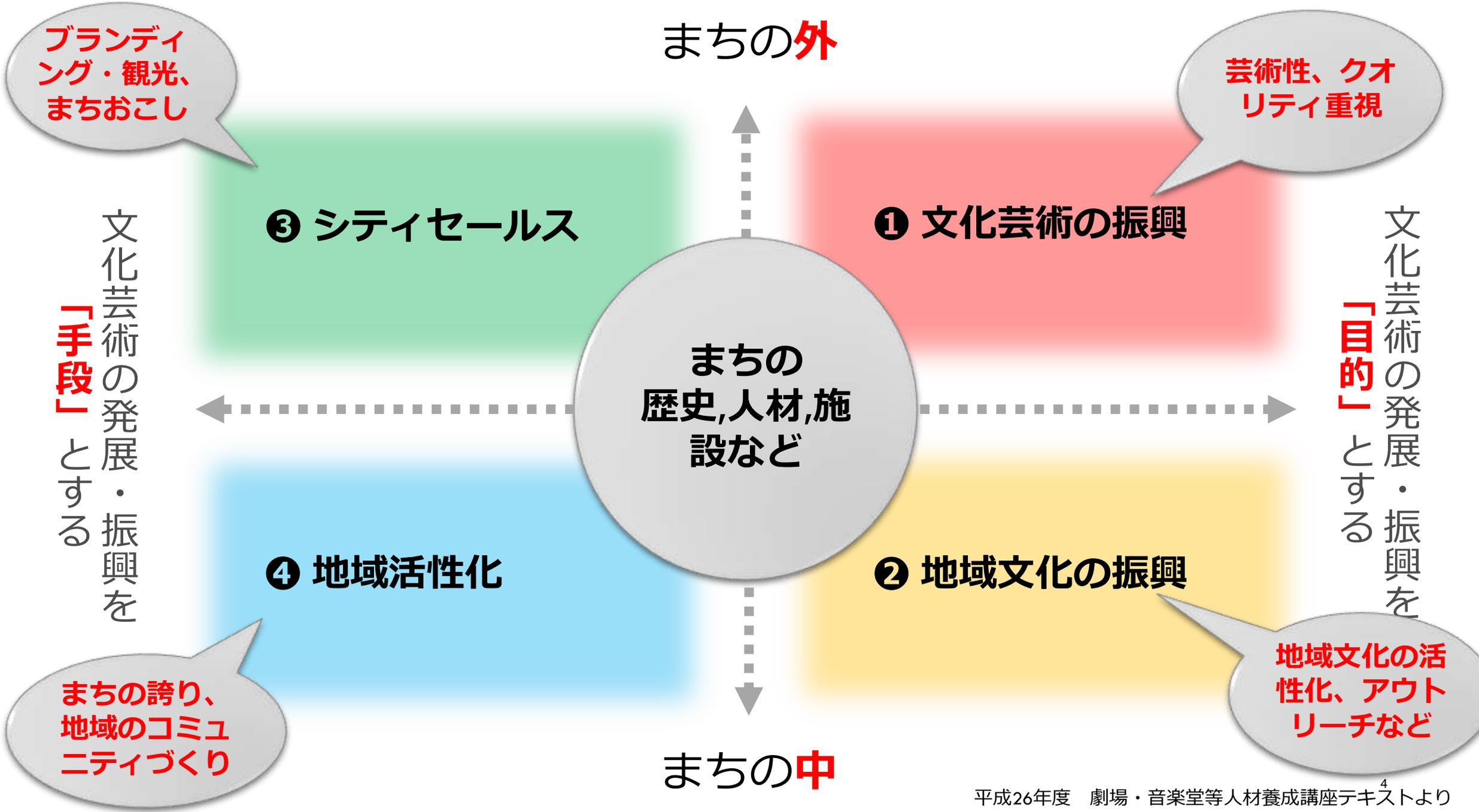
私たちは「芸術の素晴らしさを伝えたい」と思うが・・・
重要なことは、

1. 文化芸術の魅力を知る人はごくわずか
2. 仲間を見つけ、いかに継続するか
3. 他分野と連携できるか

キーワード

劇場法 文化芸術基本法 社会包摂（ソーシャルインクルージョン）

多文化共生（ダイバーシティ） 文化コモンズ 地域ガバナンス（共治）



2. 音楽企画書のポイント

① 文化芸術の振興

文化芸術という人類共通の財産を継承し、支援し新しい文化芸術を創造していくことを目的とするもので、当該自治体のエリアのみならず、**広く人々が集い**、人々に感動と希望をもたらし、創造性を育むための地域の文化拠点となる役割です。**質の高い舞台芸術公演などの創造**、芸術団体やアーティストの活動支援・育成なども含まれます。

2. 音楽企画書のポイント

② 地域文化の振興

地域における**文化芸術のボトムアップ**を図り、レベルの向上や育成も目指していく役割です。地域住民に対して優れた音楽・演劇・舞踊などの舞台芸術の鑑賞機会を提供するとともに、文化資源や歴史資源の保護・振興として、地域の伝統的な芸能の保存・継承、後継者の育成にあたること、また**アウトリーチなどで教育普及活動を担う**などの役割も期待されています。

2. 音楽企画書のポイント

③ シティセールス（活用）

文化芸術をツール（道具）として、外部から人々を呼び込んだり、地域の知名度やイメージアップを図ったりするものです。例えば大規模なフェスティバルや毎年催す映画祭や、地域資源を活用した観光催事の開催などがあげられます。

2. 音楽企画書のポイント

④ 地域活性化（活用）

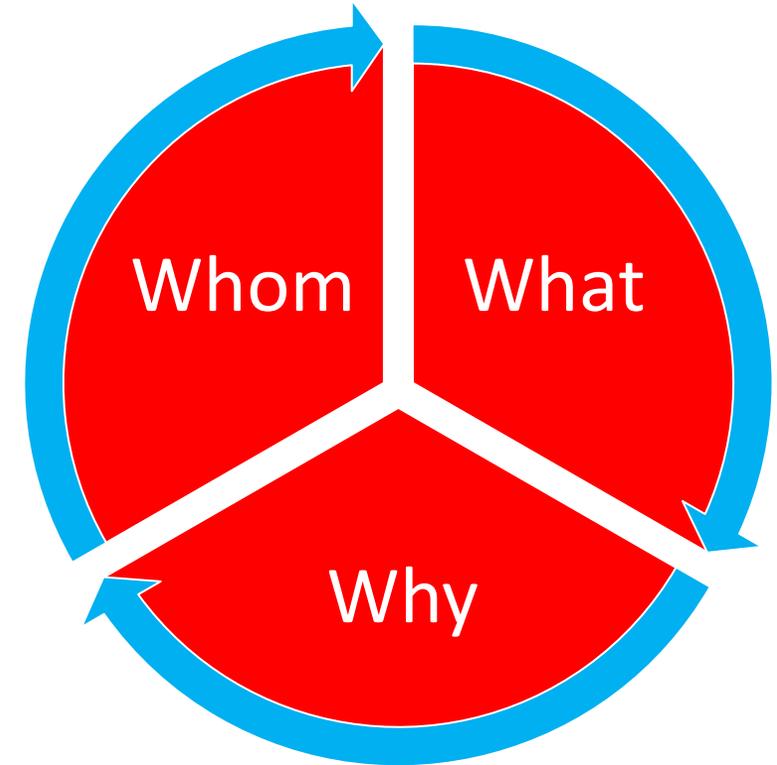
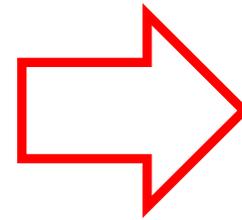
文化芸術を活用しての、**地域のコミュニティやアイデンティティを確立しようとする機能**です。その地域における活力源や地域への誇り、地域の絆やコミュニティづくりを目的とします。公共の劇場・ホールは「新しい広場」として、社会参加の機会を開く基盤として、活力ある社会を構築するための大きな役割を担っています。

2. 音楽企画書のポイント

6W2H

- ★What (なにを) 内容
- ★Whom (だれに) 対象
- ★Why (なぜ) 目的／効果

- Who (だれが) 出演者
- When (いつ) 開催日
- Where (どこで) 会場



- ★How (どうやって) 行程／広報
- ★How much (いくらで) 予算／入場料

3. グループワーク



「音楽企画書を書く」

★だれにどうなってほしい？

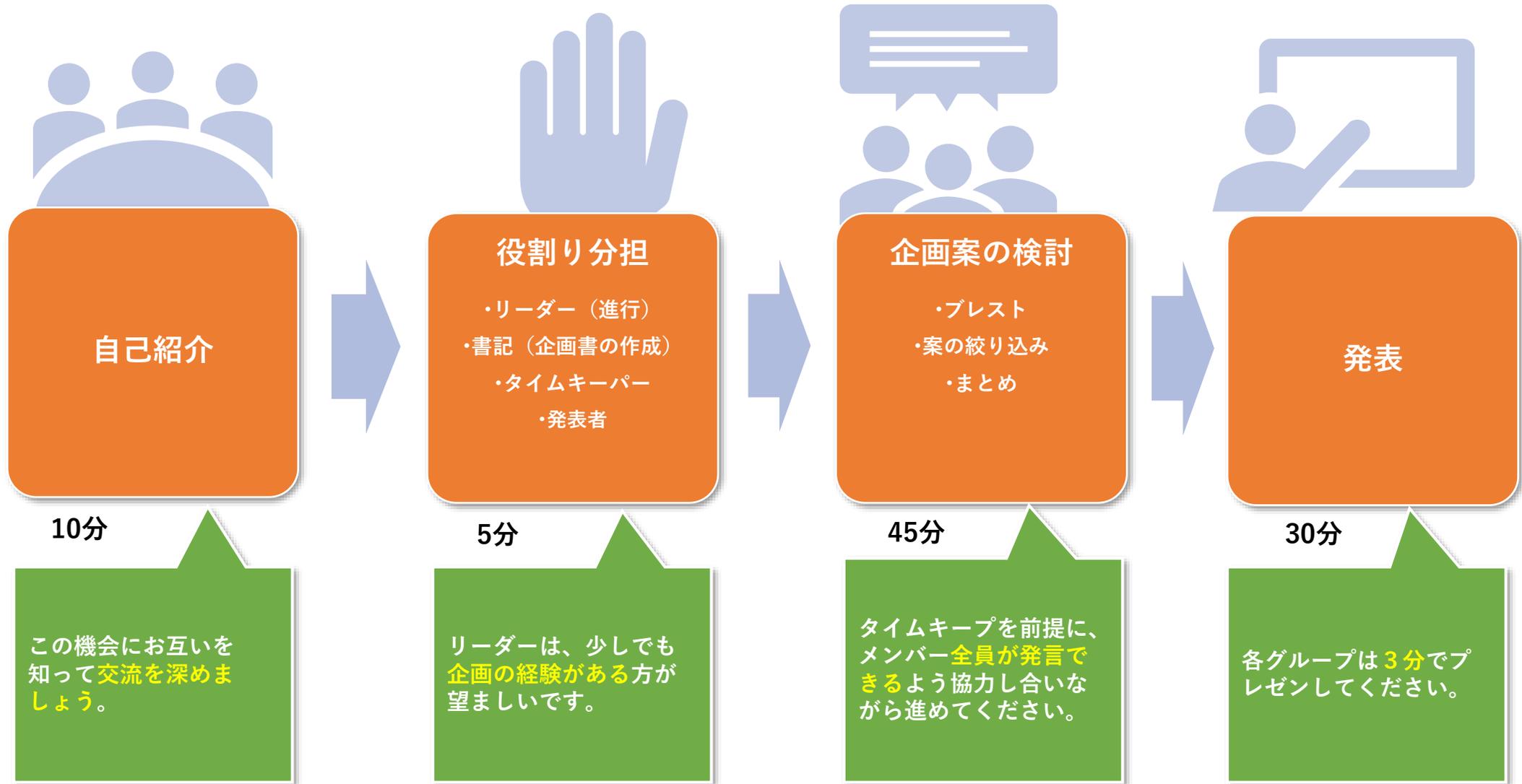
- テーマを決めよう！
- 誰のためにやるのか？
- その人がどうなるのか？
- それを誰が評価するのか？

★テーマの選択（例）

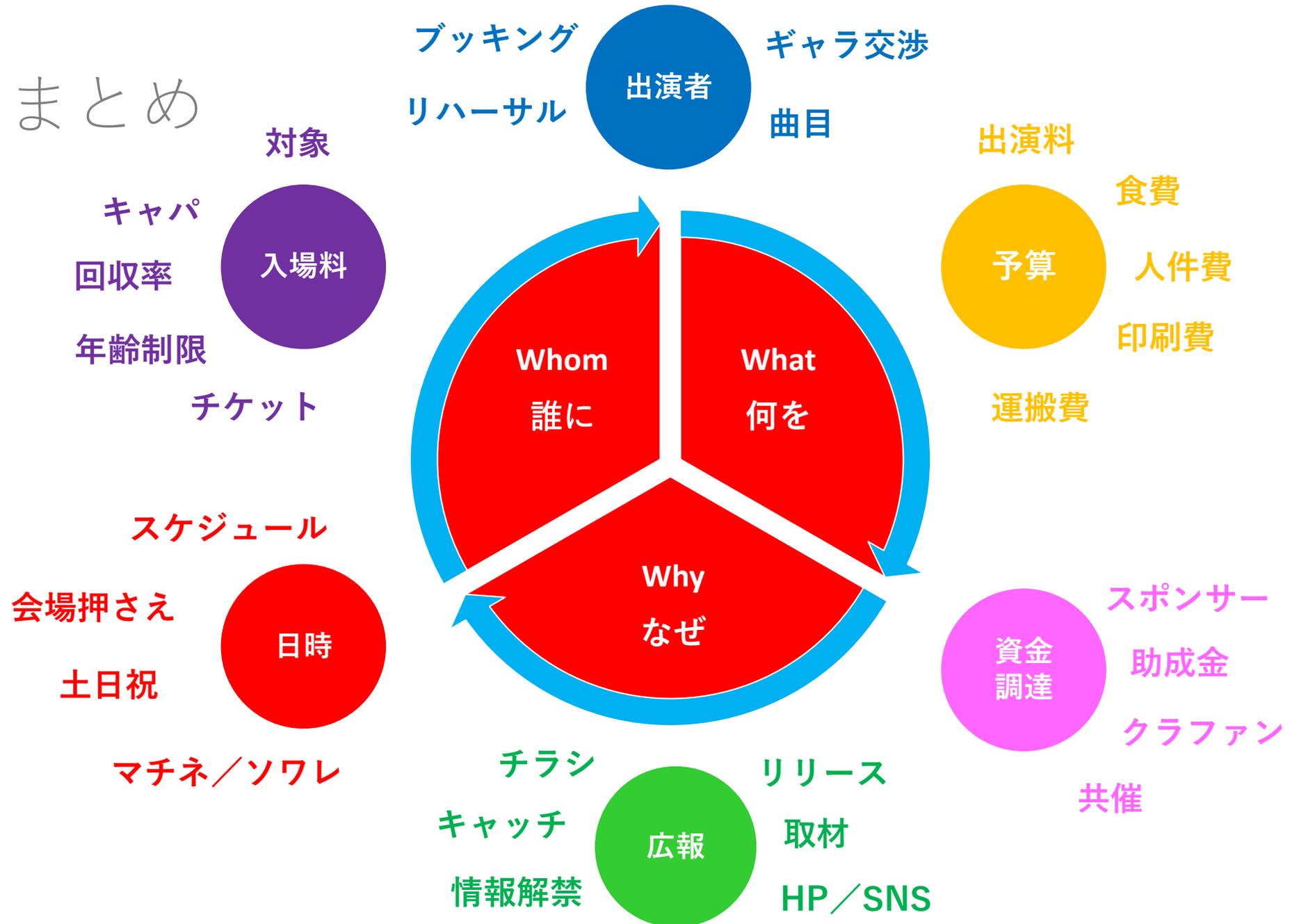
- ③ シティセールス（観光イベント）
- ④ 地域活性化（高齢者や乳幼児向けアウトリーチ）

グループ	テーマ（①か②を選択してください！クリックでプルダウン）	氏名（ふりがな）
タイトル（What）		
企画内容（What）		
日時（When）	会場（Where）	
出演者（Who）	対象（Whom）	
予算（How much）	入場料（How much）	
実現性（How）		
出演者の手配	予算の調達方法	スケジュール
目的（Why）		
期待できる効果（Outcome）		

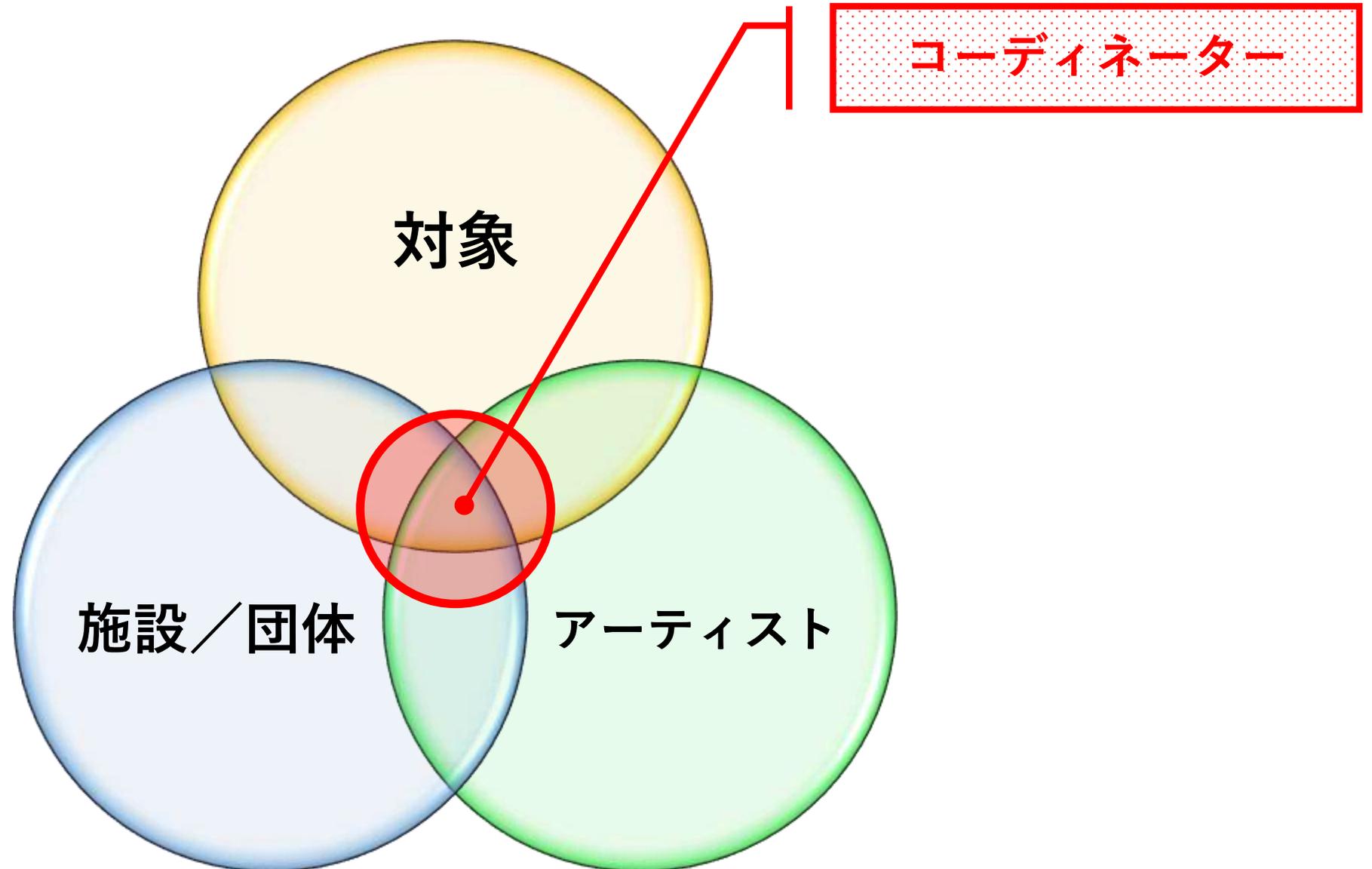
3. グループワーク



4. まとめ



4. まとめ



4. まとめ

「どこから始めれば・・・」への提案

- ① まずは地域の人と知り合う
 - 自治会、町内会、PTAなどに入る
 - 市が主催する地域イベント、ボランティア、掃除に参加
- ② 共通言語を見つけ信頼を獲得する
- ③ ネットワークを広げ、パートナーを探す
- ④ 常にアイデアを育て、タイミングを逃さない
- ⑤ 最小単位のコンサートから始め、一定のスパンで継続する